

最近反省していること 池田 昭 2016-7-1

1 生きている限り、人々のお役にたつこと

私たちは、食うために、生きるために働き、働かないで食える身分になりたいと思ってきました。しかし実際は、自分のことよりも先に、人々の幸せを願う気持があれば、やるべきことが山ほどあります。人とのふれあいを確保し、世のため人のためにお役に立つことができるものであること。脳細胞は使わないと劣化する。頭と体を世のため人のために活かすこと。それが人生を輝くものにする。

2 役人は、怠けものが多い。その姿勢が、社会情勢に適合しているかについて、絶えず注意深く見守り、必要な軌道修正を行わせなければならない。

官僚でさえも、「先頭走って躓くな。びりでは目立ち過ぎる。びりから二番目、三番目のところをトコトコ走ってゆくのが、役人のいちばん上手な生き方です。」が本音の役人が多い。激動の時代に政策を役人に丸投げすることは自殺行為であることを知らなければならない。

3 山形では、人口 1350 万人を集積している首都東京都の全面積に匹敵する 21 万ヘクタールの遊休地があります、自動車会社が自動車工場を作りたいが山形には土地がない。と言っている。「農業振興地域」という土地利用規制で、農業にも使っていないのにその他の多様な産業施設の立地を排除して遊ばせている土地が 21 万ヘクタールあります。全県の全宅地 3 万ヘクタールの 7 倍の、宅地にも使える土地ですから、これを成長産業に開放したら、想像を絶するほどのゆたかな地域に変貌し、人口減少、少子高齢化がいつきに解消し、灼熱と通勤地獄に悩む首都圏から怒涛のように人々が山形になだれこむでしょう。こんなバカな規制が行われていることをあなたはご存知ですか。それを知ったあなたはどうしますか。

4 山形から毎年安定した働く場を求めて県外に出てゆく若者が一万人いるとのこと。これに安定した仕事を与えれば人口は着実に増加いたします。役人も政治家も自分の街から仕事をもとめて出てゆく若者が何人いるかについて無関心です。そんな政治家を選択したのは私たち自身です。

5 山形県の幹部職員が、山形県の人口 112 万人が、いずれ 79 万人になるとのとんでもないマヌケの総合戦略なるものを発表したのにタマゲました。これに県首脳も、代議士、県議、マスコミも、なんの批判も反応もないのには、呆れて言うべき言葉なしです。県民所得が東京の約半分なのに、彼らにはその何倍もの給与報酬を私たちの税金で払っているのがバカらしくなってきました。